

先週の回答



「敗軍の将兵を語らずって何ですか？」
 「戦いに敗れた大将は、あれこれ言い訳をしない。するものではないとゆうことだ」
 「悔しくても？」
 「たとえば選挙で落選した立候補が、落選したのは選挙参謀のAがバカだから。広報担当のBがアホだから、秘書のCがボケだからと他人のせいにするのは」
 「みつともないですね」
 「だろう？ 敗戦の将は、みんなに苦勞をかけて精一杯働いてもらったにもかかわらず、私の力が足りないばかりに落選しました。すべて私の不徳のいたすところですよ」
 「が、聞いていても気持ちがいいです

ね」
 「だろー？ それを敗軍の将は兵を語らず。屁理屈や他人のせいには見込みがあるということだ」
 「そういえば、お母さんがキャプテンのママさんバレーの試合で負けて帰ってきたとき」
 「そうそう、あれがいい見本だ」
 「隣の奥さんが、あんなレシーブ受けられなかったから」
 「お向かいの奥さんのサーブが、なっとなかったから」
 「三軒先の奥さんが、もたもたしてたから」
 「斜め向かいの奥さんの運動神経がにぶいから」



「負けたのは、あたしのせいじゃないって」
 「いつまでも、ぐちぐち言っとった。あれがまさに愚将の見本だ。わかったか」
 「よくわかりました。ところでお父さんも昨日、隣の山田さんに碁で負けたあと『オレは負けてなかった。あの一手を先にこー打っとけば負けなかったんだ』っていつまでもぐちぐちや言ってるましたよね。あれは？」
 「あれはちがう。あのヘツポコがまぐれに打った石が、たまたまあーゆー結果を生んだまです。碁というものは、そーゆーまちがいが起こる場合もあることを知っておけ」
 「要するに勝つ奴が強いのだ。』」
 「何だそれは？」
 「昭和の囲碁棋士、前田九段（前田陳爾・まえだのぶあき）の残した名言です。『要するに勝つ奴が強いのだ』、この一言に尽きますね」
 「.....」

